

たった2人のスクラム

北野高ラグビー部 存続ピンチ

全国大会に6度出場し優勝経験もある大阪府立北野高校(大阪市淀川区)のラグビー部が、存続の危機を迎えている。部員は2年生2人だけで、来年度に新入生が入らなければ、90年以上の伝統が途絶えることもあり得る。OB会がカンパを集めて2人を春休みにニュージーランドの高校に体験入部させるなど部活動の盛り上げに一役買い、存続を願う。

旧制北野中学時代の1923年に創部し、42年には全国高校ラグビー大会で優勝した。府内有数の進学校で文武両道を掲げるが、私学強豪の台頭もあって87年度を最後に全国の舞台から遠ざかっている。

2000年代以降はサッカーなど他のスポーツ人気に加え、「練習がきつい」などのイメージもあり、徐

OBら支援の動き

々に部員が減少したという。09年からは周辺の3高校と合同チームを組んで試合や練習に臨んでいる。約2年前に2人いた上級生が引退・退部し、昨年1人だけ入部した新入生も退部し、部員は2人だけになった。

新留海主将は小学校2年でラグビースクールに通い始めた。「自分が倒されても、仲間がボールをつないでトライを奪えたときの一体感」がたまらずのめり込んだ。波田侑大選手も5歳でラグビーを始めた。先輩が2人だけだと知ったのは入学後だが、「高校でラグビーをすると決めていたので迷いはなかった」と話す。

平日は、顧問の佐藤隆夫教諭(38)と3人でのパスやキックなどの基本練習が主だ。合同チームを組む仲間との土日の練習が待ち遠しい。「会同チーム仲間とは、ラグビーでしか得られない熱いつながりがある」

そんな2人を支える動きも広がっている。同高同窓会は7日、定例のイベントに日本代表主将も務めた左瀬俊朗選手(東芝)を招き、ラグビーの魅力を語ってもらう。OB会はカンパを集めて海外の受け入れ先を探した。2人は春休みの約10日間、ニュージーランドの高校に体験入部する。藤村研二OB会長(69)は「技術を磨くと共に、人間としても成長し、部を守ってほしい」と期待する。

OBに広瀬選手や橋下徹大阪市長ら。橋下市長らが出場した87年度の全国大会では2勝し、3回戦で伏見工(京都)に惜敗した。【田辺佑介



ボールを手に押し合う北野高の新留海主将(右)と波田侑大選手。4日、梅田麻衣子撮影